

第16回エコプレミアムクラブシンポジウム

超世代・BEYOND GENERATION

2019年8月7日

梶原成元

廃棄物・3R研究財団

持続可能という言葉

- 時間的な永続性：「何が」「どのように」「変化を厭わず」
- 将来にオプションを残す

⇒ 資源の繰り返し利用（ループを完全に）

最小限の資源利用で最大限の効能（ループを小さく）

無限の資源の利用（ループからの解放）

長期の時間を視野に入れることで、先送りのおそれ？

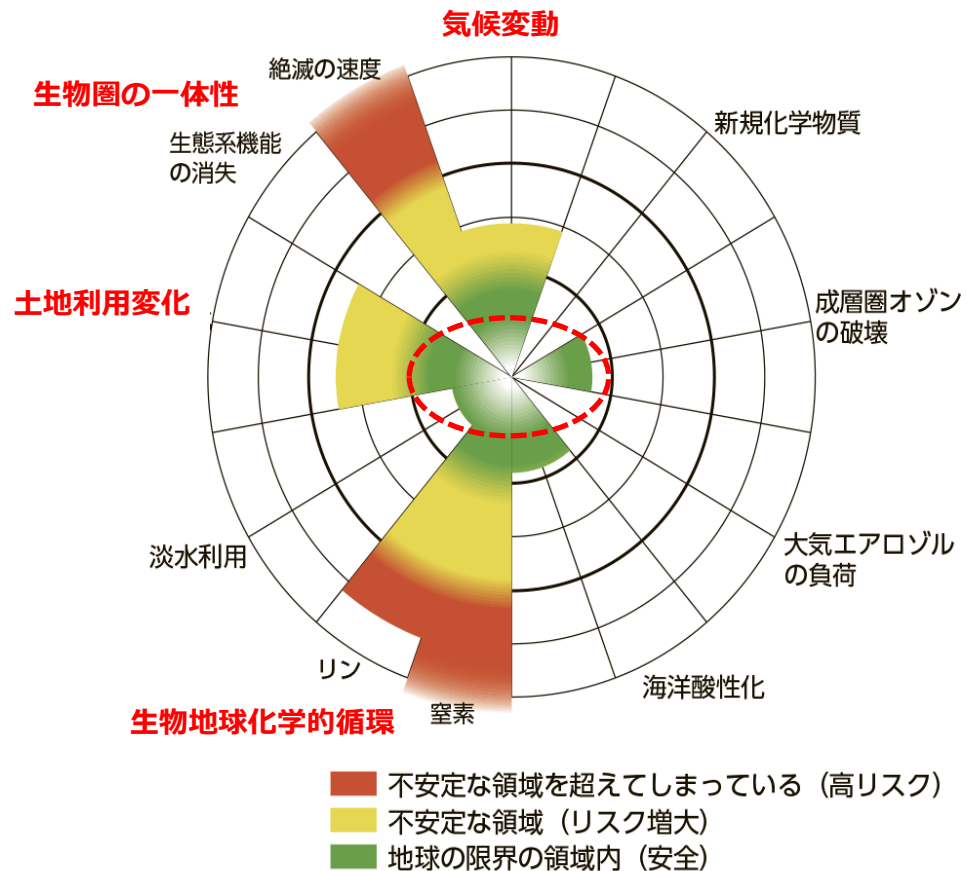
地球温暖化対策から資源循環へ

1. 地球温暖化対策は、炭素の資源循環対策
化石燃料利用のCO₂を出さない(省エネ＋再生エネ)
＋
出したCO₂をリサイクル(森林吸収、CCUS)
2. これからは、資源全体の循環利用
 - ①徹底した資源利用の削減(特に、希少な資源)
 - ②使用後の製品・廃棄物を回収⇒
再使用: そのまま再使用⇒部品再使用⇒他用途利用
リサイクル: 熱利用⇒マテリアル⇒ケミカル(原材料利用)
 - ③そのための国際枠組みの形成も視野に

地球環境容量の限界とSDGs

- 人類が豊かに生存し続けるための基盤となる地球環境は、限界に達している面もあるとの指摘。
- 「このままでは世界が立ち行かない」という国際社会の強い危機感も背景に、2015年9月、国連持続可能な開発サミットで「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択。

地球環境容量の限界



持続可能な開発目標 (SDGs)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

様々な分野における大幅削減の絵姿

大幅削減の基本的な方向性

- ・ 低炭素社会を実現するためには大幅な社会変革が必要不可欠である。
- ・ 対策は世界共通
- ・ ①エネルギー消費量の削減、②使用するエネルギーの低炭素化、③利用エネルギーの転換（電化）
- ・ ④出されたCO2を利用したり、地下貯留するCCUS

